

プログラミング実習I クラス5 (井村担当)

知能・機械工学課程 井村 誠孝

m.imura@kwansei.ac.jp

実習の進め方

● 授業時間内

- 各回のテーマに沿って，冒頭に解説
- 教科書や資料を参考に，各自で授業内課題のプログラムを作成
 - 作成したプログラムと，実行結果のスクリーンショットを，レポート提出システムに提出
 - 提出締切は実習終了時刻の10分前(18:30)
 - 時間が余った場合は宿題課題を実施
- 終了前の10分で授業内課題の要点を解説

● 授業時間外

- 宿題課題のプログラムを作成
 - 提出締切は原則として次回実習開始時刻(15:20)

- 授業内課題・宿題課題とも，提出内容に問題がある場合は，修正要求が出される．プログラムに問題がなくなるまで再提出を繰り返す．

スケジュール

9月・10月

S	M	T	W	T	F	S
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

11月・12月・1月

S	M	T	W	T	F	S
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20

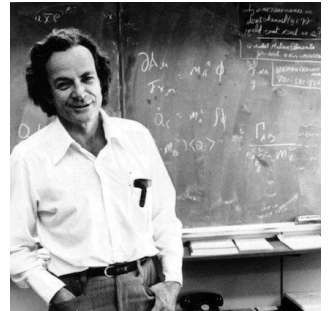
評価基準

- すべての必修課題(授業内, 宿題, 演習)を提出し, チェックを受けてOKが出る必要がある。
 - 提出締切の遅れ, 最終締切までOKが出なかった課題については, 減点される。
- オプション課題の実施は任意である。実施すれば加点する。
- プログラミング経験のある学生のために, 応用課題を用意する。実施すれば加点する。
- 他の受講生のソースコードの剽窃は厳禁である。
- 遅刻・欠席
 - 遅刻は-1点, 大幅な遅刻は-3点, 欠席は-5点である。
 - 特別な事情が無く3回を超えた欠席の場合は自動的に不合格となる。
 - 座席表に基づいてチェックするため, 指定された座席に着席すること。

学生間で教え合うときのガイドライン

- ソースコードの全体ないしは重要部分を直接提供することは絶対にしない。
- 調べるべき用語，参考にする資料，検索する言葉，教科書の該当ページなど，ここを見ればわかるというヒントを出すのが，教育的によい。
- 先生になったつもりで教えるのが，実は自分のよい勉強になる。

「本当にわかった」と思うのは，物事に二通り以上の説明ができた時だ」
リチャード・P・ファインマン



- プログラミングの実習では，かなり似ているソースコードが提出されることが毎年ある．課題が簡単であれば似る可能性はあるが，ソースコードの奇妙な特徴が同一であることから，採点者はコピー&ペーストに気付く。
- 一方，多くの場合，本人はどこが「奇妙な特徴」なのか気付くことができない．内容を理解していないため。
- 類似している場合**当事者双方に直接確認**します。